

最優秀賞（中学校の部）

「団地のコトリ」を読んで  
（課題図書：団地のコトリ）【感想文】

下妻市立下妻中学校 2年 坂入 彩水

「キョショフメイジドウ」とは何だろう。私が初めて聞いた言葉だった。居所不明児童とは所在不明児とも呼ばれ、住んでいた地域や家庭、通っていた学校から姿を消し、その後の所在の安否が自治体で確認できない子供のことをいうそうだ。現在日本では約二千九百人もの子供が居所不明児童となっている現実を知り、とても悲しくなったのと同時に、その子たちはどこでどのように暮らしているのか、実態を知れば知るほど不安に思った。

陽菜のように幸運にも良い人たちに助けられ守ってもらえばいいが、中には一人で何もできずに死んでしまう子や、親の暴力やネグレクトに耐えている子も存在するかもしれない。そんな子たちを一人でも多く救えるような社会になって欲しい。そのためには、もっとより多くの人がこのことを知り、ニュースで流れる事件などが二度と起こらないような社会づくりが大切だと思う。また身の回りでいつもとは違う不自然なことや違和感を覚えたら、見て見ぬふりをするのではなく、親や先生に話したり美月のようにすぐに行動したりすることが重要だと強く思った。

この物語は、主人公美月が陽菜との出会いによって、命の尊さや家族・友人・団地の人達の絆が生まれることが描かれている。団地という巨大な「ハコ」の中で、人目を避けて芝田のじいちゃん宅にひっそり身を寄せ、隠れるように生きていた陽菜母子。じいちゃんが突然入院してしまったことにより、衰弱して死にかけていたところを美月だけが気づき、大人の力を借りて早く助け出すことができた。団地の中で暮らしていることで、大人が気づかなかった小さな変化を、美月は見逃さずに気を留めておいたからこそ、大切な命を救えた本当に良かったと思った。

もし私が美月と同じ立場だったらどうだろうか。また、突然思いがけない状況で遭ってとっさに冷静な判断をくだすことはできるだろうか。今の私ではとても自信が持てない。美月の行動から、視野を広げることの大切さや団地の人達の勇気ある行動を学べた。

私は今、学級をまとめる役割を担う学級委員という立場にいて、クラスの一人ひとりと向き合わなければならない。クラスメイトと触れ合うなかで、ちょっとした問題でもただ黙って見過ごすのではなく、困っている人や助けを求めている人にいち早く手を差し伸べたり、周りをよく見て変化に気づけるようになりたい。それだけでなく、学級委員みんなで協力し合い、美月の周りの人たちのような助け合いの輪をつくることを目標に、団決力のあるクラスづくりにしていけるよう、日々の努力の積み重ねを忘れずに頑張ろうと思う。

私がもう一つ疑問に思ったこと。タイトルの「コトリ」は何を指すのか。「コトリ」は、陽菜が美月に対して呼んでいたあだ名だが、私には団地の「部屋」＝「鳥かご」から自由に出られない陽菜自身の様子がコトリそのものだと感じた。なぜなら陽菜は学校にも行けず、毎日孤独でさびしい思いをしているからである。だから私は、陽菜を自由な環境にして、鳥かごの中から助け出してあげたいという思いで胸が苦しくなった。また美月たちによって助けられた陽菜親子だったが、母は病院で亡くなってしまう。この世に家族と呼べる人がいなくなり、一人だけ残された陽菜を考えると、誰に助けを求めたらいいか分からないまま生きていかなければならない現実に、大きな悔しさや怒りを抱いた。

日本における貧困問題は、今の陽菜たちのような人を指す。私は人々が全て平等に暮らせる社会を目指して欲しい。誰もが幸せな社会を実現するために地域の人々同士でコミュニケーションを築くことがとても重要である。そして絆が生まれることによって、助け合いの輪ができ、やがてそれがサイクルとなりめぐりめぐる明るい社会となることを願う。